

生活支援体制整備事業 令和5年度 活動報告

調布市社会福祉協議会
地域支え合い推進員
(第一・富士見台・多摩川小学校)

目次

1 生活支援の展開について

2 担当地域の紹介

3 令和5年度活動報告：事例7

4 まとめ

社会的背景

- ・現在、団塊の世代は全て高齢期を迎えており、令和7(2025)年には後期高齢者となる。
 - ・令和22(2040)年には団塊ジュニア世代が高齢期を迎える。
- 単身高齢者世帯や支援を必要とする軽度の高齢者の増加が予想される。
- 「介護・医療・予防」といった専門的サービスの前提に生活支援の必要性が増している。
- 生活支援体制整備事業の開始。

施策の方針

- ・地域の「互助」の強化による生活支援の充実。
- ・多様化する支援ニーズや複合的な問題を抱える高齢者の増加に対し、地域住民・団体やボランティア、民間企業、関係機関等の活力・資源を活かし、幅広い生活支援の展開をしていく。
- ・地域支え合い推進員を中心とした地域活動の活性化・立ち上げ支援、ニーズ把握・資源開発、ネットワーク構築の推進。
- ・常設通いの場の充実。

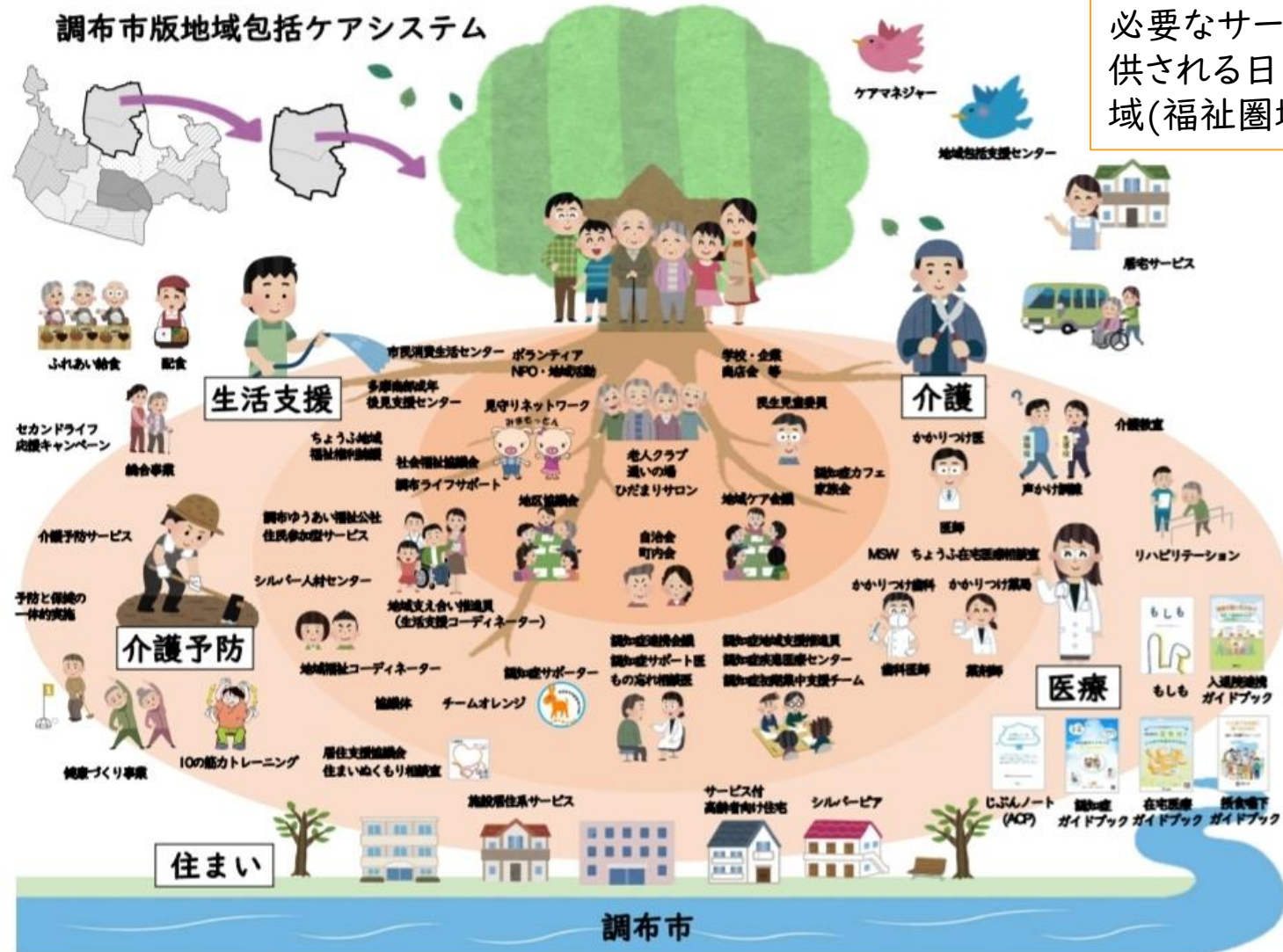
生活支援体制整備事業の創設

- ・平成27年4月の介護保険改正(※)によって、包括的支援事業のひとつとして位置付けられた事業。
- ・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活することができるよう、多様な主体が連携し、地域の「自助」・「互助」の拡充を図り、地域包括ケアシステムのベースとなる地域づくりを推進する。

※「高齢者の地域における自立した日常生活の支援及び要介護状態となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止に係る体制の整備、その他のこれらを促進する事業」
(介護保険法第115条の45第2項第5号)

地域包括ケアシステム

おおむね30分以内に
必要なサービスが提
供される日常生活圏
域(福祉圏域)



地域支え合い推進員

配置目的

- ・関係者のネットワークや既存の取組・組織等も活用しながら資源開発、関係者のネットワーク化、地域の支援ニーズとサービス提供主体のマッチング等のコーディネート機能を実施することにより地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取組を推進する。

※ 調布市では市全域を担当する「第1層」を高齢者支援室が、福祉圏域で活動する「第2層」を調布市社会福祉協議会が担っている。

※「第2層」は平成29年4月より調布市社会福祉協議会が委託を受け、初年度～令和2年まで2人体制、そこから毎年2人ずつ増員されて、令和5年10月に全8圏域に配置された。⁷



地域支え合い推進員の実践

○地域支え合い推進員の
活動イメージ図

地域にアウトリーチ*します



自治会や地区協議会、ひだまりサロン
など、人が集う場に参加しています。
地域の情報を共有していく中で、「実
は…」と相談を受けることがあります。

移動は基本、
自転車です！



活動の立ち上げ ・運営のお手伝い



活動を続けていくために必要な
情報を提供したり、悩みごとの
相談を受けたりします。

お話を伺います



「こんな活動をしたい」、
「こんなことで困っている」
など、皆さんの思いをお聞き
します。

一緒に考え、思いを形に



住民や関係機関、様々な団体と協力作
り、それぞれのできることを持ち寄り
話し合います。

*アウトリーチ：窓口で待つのではなく、
訪問すること

目次

1

生活支援の展開について

2

担当地域の紹介

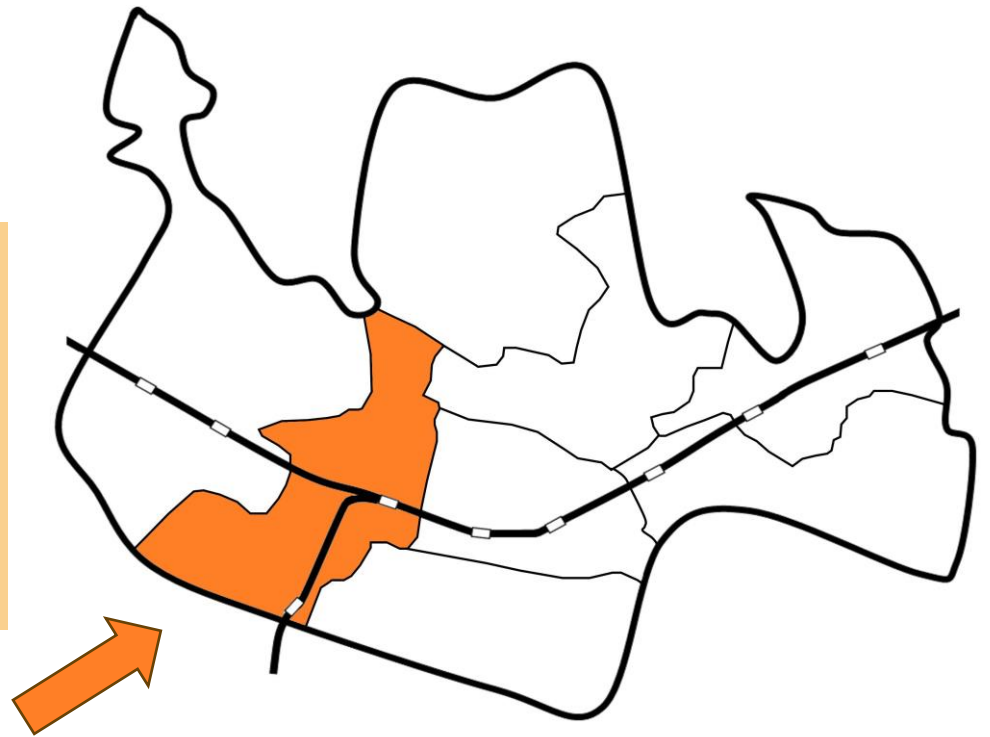
3

令和5年度活動報告:事例7

4

まとめ

第一小学校
富士見台小学校
多摩川小学校



地域支え合い推進員

地域福祉コーディネーター

地域ごとの特徴

第一小地域

- ・調布駅近辺は開発が進み、利便性が高い。北部に向かうにつれて戸建が増え、エリア内でも雰囲気が異なる。
- ・商店街や大型の商業施設等で賑わっており、企業から協力を得られる機会がある。
- ・自営業（商店街）や地主など昔から地域を知る住民が多く、そのつながりは強い。

富士見台小地域

- ・京王多摩川駅の近辺から調布駅付近までの範囲で、品川通りを境に防災への意識に差がある。
- ・地区協議会の構成メンバーは自治会役員を中心に構成されており年齢層が高い。朝の見守りなど高齢者が子どもを見守る取組も行われている。
- ・防災井戸を用いた水出し訓練や防犯パトロールをしている。

多摩川小地域

- ・京王閣や工場、スポーツパーク、大型マンション、多摩川など特色がある。
- ・地区協議会の構成メンバーは若手が多く、子育て世代のネットワークが広い。グループLINEを活用しており、参加者は50人以上。
- ・防災意識が高く、地域のつながりを作っていくというのがテーマのひとつとなっている。

地域の活動・拠点など

第一小地域

○地区協議会

ワークショップ、リソース・ネット

○10筋体操

にぎわいの里、クオーレ薬局、
地区協、自治会、まどか深大寺

○ひだまりサロン

野川サロン、おひさまカフェ、
上布田大好きOG/OB会、
そよ風サロン

○企業や商店、事業所など

無印良品、第一生命、新の会
猿田彦珈琲、東山病院、
クオーレ薬局、まどか深大寺
電気通信大大学

○子ども食堂

深大寺カフェ、土建組合、
そらかな、クアトロ・ヴァツリ

○社協主催

スマホ交流会

富士見台小地域

○地区協議会

防災訓練、防犯パトロール

○10筋体操

コーポラス、
小島町第9自治会
多摩川太陽グループ

○ひだまりサロン

みんなDEネットサロン、やよい会、
早朝体操会、テラ多摩川サロン、
ボーノ・ボーノ、メイプルカフェ、
メリーゴーランド、きさらぎサロン
多摩川太陽グループ

○企業や商店、事業所など

ノートルダム修道院
カフェ大好き、花
SIUNAUS SWEETS、

○子ども食堂

レイモンド保育園

○社協主催

小地域交流事業

多摩川小地域

○地区協議会

フードパントリー、防災フェス、
多摩川クリーン作戦、
スマホサロン、健康麻雀、
SNSの活用、

○ひだまりサロン

花カフェ

○企業や商店、事業所など

京王閣、そんぽの家
すまいるウォーク

○子ども食堂

そんぽの家(サ高住、有料)

活動の様子



地域の課題等

- ・地縁組織や地域活動の担い手不足→次世代への継承が難しい。
- ・必要な情報が必要な人に届かない→発信の工夫が必要。
- ・近隣との関係が希薄に。→あいさつや交流の機会が減っている。
- ・男性の社会参加が少ない。 …etc

第一小地域

具体例

- ・調布ヶ丘から北部は活動拠点が少ない。
- ・資源は多いが、活用されていない。
- ・他地域と比べて防災や防犯活動が少ない。

富士見台小地域

具体例

- ・品川通りを境に防災意識に差がある。
- ・内水氾濫が起こる可能性がある。
- ・高低差があり、移動に制限がある。

多摩川小地域

具体例

- ・飲食店やスーパーが少ない。
- ・水害、浸水エリア。
- ・活動拠点が少ない。
- ・ひだまりサロン等の通いの場が少ない。

目次

1

生活支援の展開について

2

担当地域の紹介について

3

令和5年度活動報告：事例7

4

まとめ

事例7

第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス, 第1層,
地域包括支援センターと連携した取組『はつらつ筋陽会』

キーワード

企業連携、介護予防、体操グループの自走化

概要

- ・調布市介護予防「ステップアップ運動教室」の卒業生による体操のグループと、地域貢献として活動場所提供を提案して下さった第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス(以下、第一生命)をつないだ。
- ・令和5年11月にオフィスの見学、10の筋力トレーニングのお試し実施, 及び会合を行った。その後、令和6年1月に講師をお招きして、現在は第2・4金曜日に活動を行っている。

事例7

第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス, 第1層, 地域包括支援センターと連携した取組『はつらつ筋陽会』

きっかけ①

- ・第一生命から調布市高齢者支援室(以下、第1層)に地域貢献をしたいという相談があり、第1層とともに第一生命に訪問して話を伺った。第一生命が実施可能な内容としては、チラシ配りの協力や第一生命の職員に向けたPRの場の設置、住民の活動場所としてのオフィスの貸し出しであった。
- ・「ステップアップ運動教室」の参加者たちから「運動教室が終わってほしくない」という声が上がった。参加者が教室の卒業後も継続して活動できる場所を探していたことから、ご提案いただいた第一生命のオフィスを紹介することになった。

事例7

第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス, 第1層,
地域包括支援センターと連携した取組『はつらつ筋陽会』

きっかけ②

- ・第一生命に協力いただくことで活動の場が生まれ、打ち合わせを進めていく中で、参加者同士がアンケート調査を行ったり、体操の講師と交渉したりするなど、実際に行動に移すことで自主グループ「はつらつ筋陽会」が立ち上がった。

事例7

第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス, 第1層,
地域包括支援センターと連携した取組『はつらつ筋陽会』

現状の確認

- ・第2金曜日に自主的な体操(10の筋カトレーニングやコグニ体操)、第4金曜日は講師を招いての体操をしている。10の筋カトレーニングは地域包括支援センター(以下、包括)からレクチャーを受けた。
- ・第一生命からコグニ体操のDVDをご提供いただき、ぜひ活用したいという話がでた。オフィスで視聴する方法がないか相談したところ、DVDの投影機を貸し出してくださることになった。
- ・ステップアップ運動教室は年に3回行われており、都度卒業生が誕生していることから、希望があれば見学や受け入れを進めていけるように調整している。

事例7

第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス, 第1層,
地域包括支援センターと連携した取組『はつらつ筋陽会』

考えたこと

- ・ステップアップ運動教室の参加者が教室を卒業した後も、健康維持のため、継続して身体を動かす機会を持ってほしい。
- ・はつらつ筋陽会の活動が継続していくためには、地域支え合い推進員として何ができるだろうか。
- ・担当圏域の調布駅前には交通の便が良く、大きな商業施設や商店、企業が立ち並んでいることから、協力・連携を図ることは可能か。

事例7

第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス, 第1層,
地域包括支援センターと連携した取組『はつらつ筋陽会』

働きかけ

- ・第一生命・・・どのような地域貢献活動に関心があるのか。また、それらは実施可能かということを通じて直接聞き取ったり、連絡調整を図ったりした。
- ・はつらつ筋陽会・・・まずは第1層と包括、社会福祉協議会の役割を説明。その後は連絡調整をしながら調布市内で自主的に活動している体操グループやひだまりサロンとして活動している他団体の情報提供と見学の同行を行った。また、第1層、包括とも密に情報共有をした。

事例7

第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス, 第1層,
地域包括支援センターと連携した取組『はつらつ筋陽会』

大切にしたこと

- ・はつらつ筋陽会の参加者が負担なく活動を継続していけるように一緒に考え、情報共有をした。
- ・企業側には本業務があるため、大きな支障なく関わっていただけするように調整した。
- ・第1層、包括とは都度情報共有し、役割の確認や対応の方向性を確認することで、携わっている方々に混乱が生じないように努めた。

事例7

第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス, 第1層,
地域包括支援センターと連携した取組『はつらつ筋陽会』

今後の展望

- ・健康寿命を延ばすため、自主的に体を動かし、交流できる「はつらつ筋陽会」のような取り組みが調布市内全域に増えてほしい。
- ・企業や商店等とのつながりを大切にしていき、今回のように「地域貢献がしたい」と相談を受けた際には、どういったことができるか一緒に考えたり、本事例をもとに発信したりすることで、地域活動の幅や参加の場が広がってほしい。
- ・調布市の現状として男性の参加者が少ない傾向にある。フレイル予防という観点からも、こういった運動の機会や自身に合った社会参加の場を見つけれられるように働きかけていきたい。

事例7

第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス, 第1層,
地域包括支援センターと連携した取組『はつらつ筋陽会』

令和6年現在の様子

- ・ステップアップ運動教室の卒業生の他にも、参加希望があれば見学会の実施や受け入れをしていただいている。
- ・体操後の交流の時間を活用し、講師を招いて講座を受けるなど活動の幅が広がっている。
- ・電気通信大学から依頼があり、10の筋力トレーニングの評価システムの研究に関わっている。



目次

1

生活支援の展開について

2

担当地域の紹介

3

令和5年度活動報告：事例7

4

まとめ

まとめ

～長生きしたいと思えるまち
長生きしたいに応えるまち ちょうふへ～

